

4月21日に本校3年生を対象に実施された「全国学力調査」について、結果がまとまりました。今年度は国語・数学・理科で実施され、テストと同時に家庭での過ごし方や学習時間と問う調査も実施されました。生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・数学・理科）

総合結果は全国平均を下回っていますが、ここ数年と比べると徐々に全国平均に近づきつつあります。基礎的・基本的な知識が身についてきている生徒が増えています。一方、身についた知識・技能を活用できているかを見るB問題に苦手意識が見られます。日頃の授業を大切にし、落ち着いて学習に取り組む姿勢を第一として、考える力や表現する力を身につける必要があります。

国語科より

「文脈に即して漢字を正しく読む」などは、全国平均を上回る回答もあり、読む力はついてきています。一方、「表現の技法」「複数の資料から適切な情報を得、文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く」など、表現する（書く）力には課題が残ります。日記をつける、文章による意見交換を行う、行事等の感想をこまめに書くなど表現する（書く）機会を増やすことが大切です。

数学科より

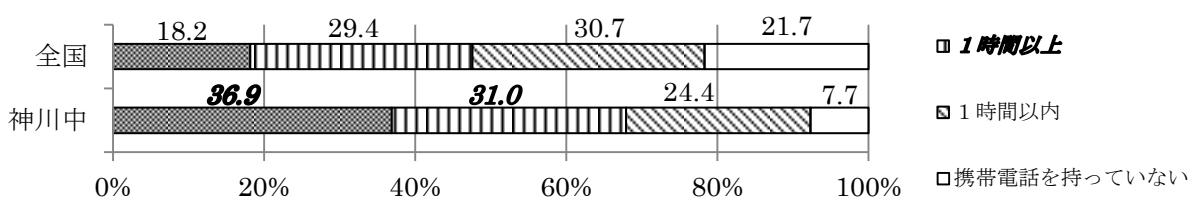
「意味や本質の理解」については全国平均を上回っています。関数の意味や図形の性質、作図の方法などを答える問題はよくできていました。計算する力については全国平均とほぼ同じです。一方、「式を作ること」に関しては課題が残ります。計算することができても、立式することに難しさを感じる傾向にあります。式を作るためには、与えられた情報を整理し数式で表現する力が必要です。日々の学習の中で、自分の考えを説明する機会や数式で表現する機会を増やすことが大切です。

理科より

「天気用図記号を読みとる」「電磁誘導のようすの説明」については全国平均を上回っています。基礎的・基本的な知識は身についてきています。一方、「科学的な現象を説明する問題」では全国平均と比べて正答率が低いだけでなく、無回答率が非常に高いという結果になりました。自分の言葉で自然現象を説明することが苦手な傾向にあります。科学的な現象に興味を持ち、それを説明するために考え、話し合い、発表する機会を授業や日常の生活の中で増やすことが大切です。

生徒質問紙調査から ①

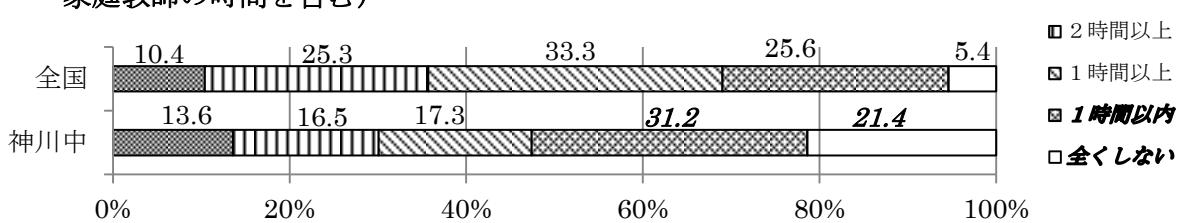
平日 1 日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか？



全国平均と比較して、本校生徒の携帯電話・スマホの所持率は高く、7割近い生徒が1時間以上使用していると回答しています。「ゲームやテレビの時間」の質問についても同様の傾向が見られました。携帯電話・スマホの長時間の使用は、学習時間や睡眠時間に影響が出ることはもちろん、依存症の心配も指摘されています。

生徒質問紙調査から ②

学校以外に平日 1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか？（塾や家庭教師の時間を含む）



2時間以上家庭学習に取り組んでいる生徒は全国平均とそれほど変わりませんが、1時間以内の生徒、特に全く家庭学習に取り組んでいない生徒の割合が非常に高くなっています。学習内容を定着させるには、学校の授業だけでなく家庭での予習・復習が必要不可欠です。携帯電話・スマホの長時間使用とも関連が見られます。

全体を通して本校の成果と課題

授業における学習規律を定着させるために、校区の小学校と連携して授業の「めあて」と「ふりかえり」を行うことを徹底しています。また、基礎的・基本的な知識の定着をはかって、テスト前学習会や、学習確認プログラムの取組を充実させるようにしています。今後は、生徒が積極的に参加し、思考力や表現力が育まれるような授業づくりを心がける必要があります。

生徒質問紙調査からも読み取れるように、家庭での学習が不十分な点が浮き彫りになっています。学校からも家庭学習を出していますが、期限までに提出できない生徒もいます。家庭での学習の充実が本校の大きな課題です。京都市では中学生の自宅学習の時間の目安を2～3時間としています。与えられた課題だけでなく、自ら進んで学習する姿勢や習慣を身につけてほしいと思います。ご家庭でも「勉強しなさい」という声かけだけでなく、どんな学習をしているのか見ていただいたら、共に考える時間を少しでも持っていただければ、子どもの学習意欲も高まると思います。